



令和5年
3月15日
第20号
発行
内外政治
研究G
代表 宮田修一

LGBT法案には不要な 「性自認」「差別を許さない」

「LGBT理解増進法」の行方が気になります。令和3年に自民党内で了承されたが、女子トイレや女性風呂が入って来た場合、この文言によって、注意すらできなくなる恐れが出ており、ネット上でも懸念の声がまっています。

女性の不安を「差別」と攻撃する活動家

「差別」などの文言が法律に入ったらどうなるかを予期させる「事件」も起きています。映画業界の被害を追求して来た女優が、SNSで「体が男性の方に（女性スペースに）入ってこられたら、とても警戒する」などと投稿したところ、活動家などから「差別だ」などと攻撃を受け、投稿の削除と謝罪に追い込まれたのです。

「女性専用トイレ」を排除するのが多用途？

「多様性」という言葉も独り歩きしています。東京・渋谷区が今年2月に新設した公衆トイレには、男性用小便器と男女共用トイレはあっても、女性

用トイレがありません。別姓派の学者の助言を入れた企画とみられますが、同区は「ダイバーシティ（多様性）を受け入れる社会の推進を図る目的」と説明しています。女性専用トイレを排除することがなぜ「多様性」なのか理解に苦しみま

「LGBT法整備、小手上にやれば逆に差別助長」産経ニュース

「LGBT理解増進法」の何が「問題」なのかニッポン放送 NEWS ONLINE



憲法シリーズ(5)

緊急事態条項の「緊急政令」

「緊急財政処分」も論点に

衆議院では3月2日に国会（1月23日から150日間）で初の憲法審査会が開かれ、続く9日の審査会では、自民党の筆頭幹事である新藤義孝氏が、緊急事態事項について、議論の論点と今後の方向性を示しました。

この中で同氏は、議員任期延長の期限について、「上限は1年とし、再延長も可能とすべき」との考えを示しました。また、国会が開

自民別姓議連の「法務部会」 決着を阻止せよ！

部会長は別姓推進派

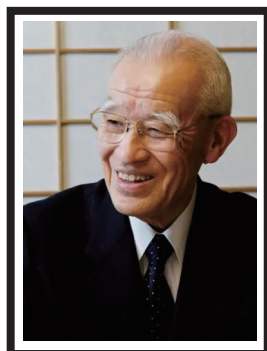
自民党の「選択的夫婦別氏制度を早期に実現する議員連盟」（会長・浜田靖一防衛相）が3月9日に国会で総会を開き、「党内議論の再開を求める決議」を

総会に出席したのは女性議員を含む20人だけでしたが、議連関係者によると、野田聖子議員が「自民党は今まで逃げてきた。議論は法務部会でやるしかない」と要求しました。

行部に決議文を渡すとみられ、LGBT理解増進法と抱き合わせて、一気に導入に向けた流れを作ろうとしています。

法務部会は、元沖縄弁護士会副会長で衆院九州比叅区の宮崎正久議員が部会長を務めており、この日の総会では（党内の議員には）「選択していいのか、させないのか、で迫るしかない」と発言したということです。

計報



元最高裁長官で日本会議の会長を務められた三好達（みよし・とおる）氏が3月6日に95歳で逝去されました。衷心よりご冥福をお祈り申し上げます。

退任後も日本会議名誉会長として活躍され、伝統に基づく男系男子による皇位継承の堅持を求めて平成24年に結成された「皇室の伝統を守る国民の会」の会長に就いておられました。

けない場合に内閣の権限で法律を制定できる「緊急政令」や、予算を策定・執行できる「緊急財政処分」についても、超法規的措置を防ぐために必要との考えを改めて示しました。

参院の憲法審査会は、立憲が予算案審議中の開催に応じず開催されていませんが、自民は隣接県を一選挙区としている「合区（ごうく）」解消や衆院で議論がすすむ「緊急事態条項」をテーマにすべきとしています。